

五十嵐幸男先生の御逝去を悼む

日本獣医史学会理事長 小佐々 学



日本獣医史学会元顧問で名誉会員の五十嵐幸男先生が、平成25年9月16日に96歳の生涯を終えて他界されました。先生は日本獣医師会の第10代会長を3期6年間務められるなど、長年にわたって我が国の獣医界の発展に指導的役割を果たされました。

獣医史学への関心と造詣が深く、様々な御助言を頂きましたが、『日本獣医史学雑誌41号』の巻頭論文として「牛の臨床55年の回顧」を御寄稿頂き、臨床獣医師としての御活躍と共に、研究業績、教育業務や関連業界での御活動など、戦後の混乱期から復興した獣医界の貴重な歴史を紹介して頂きました。また、平成19年に本学会が、発行した『日本獣医学人名事典』には6名もの人物伝を御執筆頂き、さらに『日本獣医史学雑誌49・50号』の「文献紹介」欄にも御寄稿頂くなど、学会の発展を温かく見守って支えて下さいました。

五十嵐先生は、大正6年に岩手県藤沢町(現・一関市藤沢町)で御出生、盛岡高等農林学校(現・岩手大学)獣医科在学中に陸軍獣医部委託生となり、昭和13年の卒業後から陸軍獣医部将校として北朝鮮・中国南部・東京の近衛師団・スマトラ・中国東北部(旧・満州)で軍用動物の保健業務に御活躍され、終戦後は3年間に及ぶ苦難のシベリア抑留生活を終えて帰国されました。

復員後は埼玉県熊谷市で産業動物の開業獣医師として活躍され、昭和56年から平成11年まで埼玉県獣医師会会長を、平成11年から平成17年まで日本獣医師会会長を務められ、関連業界の要職を歴任されました。また、埼玉県文化功労章、黄綬褒章などを、さらに平成17年5月には旭日重光章を授与され、授与式では受章者を代表して天皇陛下に謝辞を述べるという榮譽に浴されました。

先生は「徳義と和」と共に「生涯現役」の精神を大切にされ、業界活動や診療業務に従事されました。御逝去の報に接した多くの方々が、その不撓不屈の精神と共に温厚篤実な人柄など先生の人徳を偲んでおられました。

ここに日本獣医史学会の会員を代表して哀悼の意を表しますと共に、心より御冥福をお祈り申し上げます。

KOZASA Manabu : Eulogy upon Dr. IGARASHI Yukio